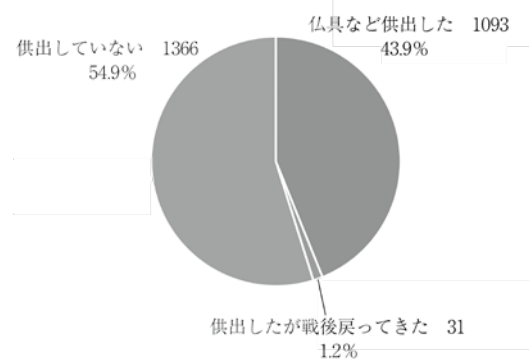


# 「宗門寺院と戦争・平和問題」調査報告(その6)

## —「アジア・太平洋戦争」の金属供出2—

新田光子 (戦時被災等調査委員会委員  
「戦時調査室」調査担当)

渡辺慶子 (「戦時調査室」調査研究員)



図表1 仏具供出についての回答

「宗門寺院と戦争・平和問題」調査につきまして、引き続きご報告させていただきまします。今号では、「アジア・太平洋戦争の金属供出2」と題して寺院仏具の供出についてとりあげたいと思います。

### 1、回答結果の概要

郵送調査票の(問19)「梵鐘供出に関する問いに続いて、(問20)「仏具など金属品の供出についてはどうでしょうか」とお尋ねしました。この設問の選択肢とし

ては、寺院の「創設以前のこと」を設けていました。この回答と無回答を除いた回答の集計結果を示したものが図表1です。

「供出していない」が半数を超えています。また、「仏具など供出した」「供出したが戦後戻ってきた」を合わせると5割近くを占めています。また、供出した仏具が「戦後戻ってきた」ケースが若干あることも、大変興味深いことです。

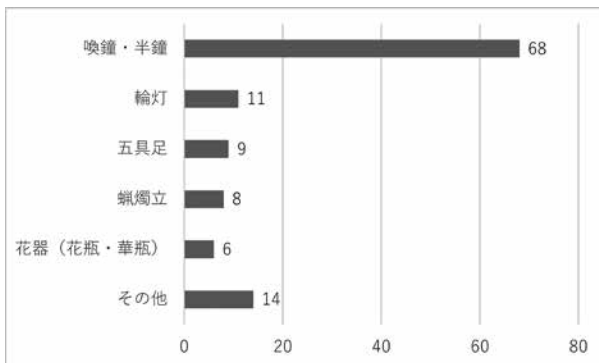
「仏具など供出した」の回答には、さらに「主なものは何でしたでしょうか」と尋ねた結果が図表2です。全回答は2200点余りを数えることができ、具体的な仏具などの名称を多い順に並べたものです。

「供出したが戦後戻ってきた」という回答にも、「それは何でしたでしょうか」と尋ねてみると、100余りの記述があり、最も多かったのは喚鐘でした(図表3)。喚鐘は、「空襲警報用に火の見櫓で使われていた」という記述が複数ありました。



※「その他」には、鏡（妙鉢）、華鬘などの仏具の他、火鉢、生活用品や建物の一部なども含まれています。

図表2 仏具供出の主なもの



図表3 「供出したが戦後戻ってきた」もの

また、この記述回答欄には、「代用品が戻ってきた」「別の寺院のものが戻ってきた」、あるいは「壊れて戻ってきた」など、戻ってきた時の仏具の状態についての記述もありました。陶製やガラス製・木製の代用品を、現在まで使用されていたり保存されているケースも少なくないようです。

仏具（あるいは梵鐘）については、戦

後の寺院活動に関して、次のような回答もありました。

「蓮如上人450回遠忌法要（昭和25年）をきっかけに、仏具を多くの方々が寄進くださっています。」（奈良教区寺院）

「親鸞聖人700回大遠忌法要（昭和37年）を勤めるにあたり、本堂修復や梵鐘や仏具の購入へのご門徒意識が

高まったことがあげられる。」（奈良教区寺院）

「親鸞聖人700回大遠忌の厳修（仏具や内陣のお荘嚴）」（福岡教区寺院）  
失われた梵鐘や仏具をそろえ、門徒とともに大きな法要を行ったことで、戦後における寺院活動の再出発を実感されたとの回答がありました。

大阪府堺市石津町(四三番地)	大鳥南組	円浄寺	物件名	鉄銅合成品	別個重量
半鐘	鉄	銅合成品	一	九〇〇g	
香炉	合上	銅合成品	三	六〇〇g	
燈籠	合上	銅合成品	二	三九〇g	
花立	銅合成品	大小	八	二三〇g	
蠟燭立	合上	銅合成品	二	一七〇g	
藤附屬	合上	銅合成品	一六	一七八g	
伊飯器	合上	大小	一	四五〇g	
花籠	合上	銅合成品	一	一五〇g	
鉢	鉄銅用ナット	一	一三五〇g		
鉢	其他鉄製品	一	一三五〇g		
至徳塔					

至徳手洗	銅製	大小	九	一七〇〇g
天水受				
至徳門扉				
火鉢	銅合成品	大小	四	二四〇〇g
燭台	鉄製	品	一	一三五〇g
葉籠	銅製	品	三	五五〇g
生花華蓋	其他銅製	品	一	〇五〇g
茶卓	合上		五	〇五〇g
以上				
鉄製類	二〇個	拾四貫八百五十五文		
銅器類	一七個	七貫七百五十五文		
合成器	四八個	拾六貫八百五十五文		
合計	八五個	参拾五貫九百五十五文		

昭和十八年三月九日奉山文部省報告  
スベキ表守組長(印)提出

資料1 「献納品報告表」  
(大阪教区大鳥南組円浄寺提供)

## 2、仏具供出の寺院事例

以下では今回提供された写真・資料を  
ご紹介させていただきます。

### ①「献納品報告の表」

大阪教区大鳥南組円浄寺から提供され  
たこの表には物件名、鉄(鍍)・銅合成  
品の別、個数、重量(貫・匁)が記され  
ています(資料1)。末尾に記載されて  
いますとおり「昭和十八年三月二十日」、  
本山より文部省に報告すべき表として組長  
に提出された」ものです。

同寺院は、これ以前にも「昭和十五年十二  
月三日付」あるいは「昭和十六年四月五日  
付」で仏具だけでなく鉄柵、茶卓、鍋・  
釜など生活用品の金属品供出をおこなっ  
ています。

### ②「供出仏具と感謝状」

京都教区天何組教念寺から提供してい  
ただいた写真(資料2)は、「昭和十九年」  
に撮影されました(撮影月日不明)。当寺  
院ではそれ以前にも仏具供出がおこなわ  
れて、「財団法人戦時物資活用協会」か

らの感謝状を受け取りました(資料3)。  
③「門信徒一同による仏具供出」

北豊教区築城組正善寺から提供してい  
ただいた写真(資料4)には、蠟燭立、  
花器、仏飯器など同じ種類の仏具が多数  
写っています。「天業翼賛へ仏具出動」  
と書かれた木札は、「門信徒一同」と書  
かれています。

「宗門寺院と戦争・平和問題」調査は、  
戦争と平和という視点から各寺院の歴史  
的事実を記録にとどめるということを目  
的にしております。回答結果ならびに寺  
院事例紹介の次号では、「空襲・原爆」  
をテーマにご報告いたします。

この調査のとりまとめにあたっては、  
本年11月・12月に「宗門寺院と戦争・平  
和展」(仮称)の開催を企画しております。  
宗門内外における情報共有の機会とさせ  
ていただきたく存じますので、戦時調査  
室に寺院史料・戦前・戦中写真をお寄せ  
ください。



資料3 感謝状 (同寺院提供)



資料2 仏具供出記念写真 (京都教区天何組教念寺提供)



資料4 「門信徒一同」による供出 (北豊教区築城組正善寺提供)

資料のご提供先・お問い合わせ先

【戦時調査室】

開室時間・火・水・木 10時～12時、  
13時～16時 (宗務所休日は除く)  
〒600-8349

京都市下京区堺町92

浄土真宗本願寺派総合研究所内

「戦時調査室」

Tel/075-354-5087

Fax/075-354-5360

Mail/senji-chousa@hongwanji.or.jp

新田光子 (戦時被災等調査委員会委員)

渡辺慶子 (調査研究員)

牛島悠紀 (調査研究員)